

Labo News

らぼ ニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
花車ビル南館 〒450-0002
電話 052-581-1013
FAX 052-586-5680
ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
取引銀行 三菱UFJ銀行 柳橋支店
普通口座731-677
発行人 中根生弥
編集人 武山純也

No.448 目次

- ◆第68回日本医学検査学会International Young BLS forum に参加して…… (2)
- ◆新人サポート研修を受けて…… (3)
- ◆第1回医療法等の一部改正に伴うよろずセミナー2019を開催して…… (4)
- ◆世界禁煙デーに参加して…… (5)
- ◆地区だより…… (6)
- ◆基礎講座…… (7)
- ◆AICCLS 愛知県臨床検査標準化協議会通信 (第61回) …… (8)

愛臨技総務部門の業務と立入検査の概要について

総務部門担当副会長 中井 美千代

当会の総務部門は庶務部と会計部から構成されております。庶務部の主な業務としては、会員及び会員施設の掌握、文書管理、総会開催に関する準備、理事会等会議の準備と議事録管理、表彰関係業務など当会が公益法人として活動する上での基礎となる業務を担っております。会計部の業務は、学術部門及び精度管理事業部門並びに各地区の毎月の会務と会計報告の確認を行い、年間を通じ予算の執行状況を確認し、予算案の作成及び決算関連の書類作成を公認会計士の指導を受けながら遂行しております。

当会は2013年（平成25年）4月に公益社団法人として認定を受けてから6年が経過しました。公益社団法人は「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下、公益法人認定法）」（平成18年法律第49号）第27条第1項の規定に基づき、法人の運営組織及び事業活動に関する検査を3年に一度受検することが義務付けられております。

その公益法人認定法に則り、昨年10月24日に2回目の立入検査を受検いたしました。検査当日は技師会事務所において愛知県健康福祉部の担当者4名、当会からは会長及び監事、前総務部門担当副会長、総務部門副会長、庶務部長、会計部長、総務担当理事2名、税理士2名の計9名で、午前9時から午後4時まで各分野において詳細に検査が行われました。

検査にあたっては、事前に提出済みの400項目余の「立入検査チェックリスト」の中から、各事業や財務状況に係る具体的な内容について説明を求められ、担当者が回答をしていきました。

結果は、検査当日にいくつか指摘を受けた事項に関しては、様式の改訂や運用の改善などにより早期に解決できるものであり、その他については全般的に当会の運営組織及び事業活動は概ね良好と認められ、今後も関係諸規程を遵守し、適正な法人運営に努めるようにと約2ヶ月後に通知がありました。これも偏に平素からの皆さま方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

今年度も引き続き、2019年度定時総会で報告いたしました予算案と事業計画に基づき、公益社団法人としての基盤を盤石にするよう会務を遂行してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第 68 回日本医学検査学会 International Young BLS forum に参加して

名古屋大学医学部附属病院

医療技術部臨床検査部門 弘津真由子

令和への改元後初となる第68回日本医学検査学会が2019年5月18日・19日、山口県下関市にて執り行われました。充実した数多くのプログラムの中、若手技師の国際対応力向上を目的とした「International Young BLS young forum」が企画・開催されました。初の試みとなるこのフォーラムに、フォーラム責任者であり職場の先輩である菊地良介さん、フォーラム委員である名古屋第二赤十字病院の原祐樹さんと私の3名が愛知県から参加させていただきました。

フォーラムでは、日本・韓国・台湾の若手技師代表が参集し、近年医療現場にも応用されつつある人工知能（AI）と、未来の臨床検査技術との関わり方について、「精度管理」・「ゲノム医療」・「遠隔医療」をテーマに3チームに分かれて議論を行いました。私自身、英語は“全く”と言っていいほど話すことができませんでしたが、検査技師の国際化にはとても興味があったため、「精度管理」チームの一員として参加することになりました。それぞれのチームは日本人6名、韓国人2名、台湾人2名で構成され、各国、それぞれのテーマにおける現状や問題点を洗い出し、事前に資料として提出して頂きました。チーム内でどのように議論を展開していくか構想を練り、その中で意見を英語で表現できるように約半年間かけて準備をしました。フォーラム前日には韓国・台湾のメンバーと交流する時間が設けられ、議論し

易い雰囲気事前に築くことができました。各国のメンバーはとても親切かつフレンドリーな方々で、私の拙い英語をフォローしながら一生懸命聞いてくださいました。私の所属したチームは“精度管理におけるAIの有用性”というテーマが与えられました。日本語でも議論が容易ではないテーマではありましたが、あらかじめ良い関係を築けたこともあり、予想以上にスムーズにディスカッションは進みました。与えられた90分の中でテーマについて議論し、チームとして最終プレゼンテーションの作成を行う、という流れでしたが、ディスカッションは大いに盛り上がり90分はあっという間に過ぎ去りました。テーマごとに10分程度で最終プレゼンテーションが行われた後、チーム毎の相互投票が行われ、なんと私たちの「精度管理チーム」が「Best Presentation Award」を獲得することができました。このような初めての経験のなか、さらに賞を頂けたことは喜びと同時にとても大きな達成感を得ることができました。本フォーラムを経験し、国際交流の重要性や言語を問わず自分の意見を表現することの難しさや大切さを学ぶことができました。

最後に、このような貴重な経験を与えて頂きまして、日臨技の関係者の皆様と職場の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。



新人サポート研修を受けて

藤田医科大学ばんだね病院 後藤 健太、鬼頭 涼音、服部 真季

就職して2ヶ月の院内研修を終了し、さらに知識を増やす目的で愛知県臨床検査技師会が主催する「新人サポート研修会～学びを力に変える！実践力アップの基礎とコツ～」に参加させていただきました。

「日当直者が知っておきたい微生物検査の基礎」では血培が診断や治療に大きく関与する重要な検査であることを再確認しました。「明日から役立つ血液検査の基礎」ではデータの見方として全体的なバランスを見ること、MCVの値は変動しにくいので測定時の影響などを考える指標になること、検体不良の際の再採血が必要となる条件などを学びました。「尿検査の基礎」では検体の性状と臨床的意義のつながりや、尿沈渣の見方から注目すべき点などすぐに使える知識が身につきました。

今回の研修会では各分野の基礎知識や夜勤時の対応の仕方、検査結果の見方、迅速かつ正確な検査結果を報告することの重要性について学ぶことができました。研修会で学んだことを今後の業務に役立てていきたいと考えております。

産休育休復帰後こそ必要な新人サポート研修会

豊橋市民病院 齊藤 知枝

2019年5月26日(日) 午前9時30分より、名古屋市立大学にて「2019年度新人サポート研修会—学びを力に変える！実践力アップの基礎とコツ—」が開催されました。

私は新人ではありませんでしたが、産休育休を経て3年ぶりに職場復帰したため、長い休みで錆びついた感覚を少しでも取り戻そうと思い参加させていただきました。

研修会は、それぞれの専門分野の基礎的な内容を1日かかりで勉強するカリキュラムでした。日々、第一線で活躍されている先生方の資料は、検査の意義及び手技をはじめ、日当直勤務における重要事項や症例に基づいた病態の考え方等について分かりやすくまとめてあり、これからの検査業務に直結するものでした。

例えば、日当直勤務でしか携わらない検査に関しては、久々に聞く単語もあり、懐かしさ半分、焦り半分でしたが、すっかり忘れてしまっている部分を再確認することができ、大変有意義な研修となりました。

日々携わっている業務以外は、なんとなく苦手意識があり、今後日当直勤務を行うことに不安を感じていましたが、今回の研修内容に沿ってもう一度復習し直すことで不安をなくし、これからの検査業務に取り組みたいと思います。



第1回 医療法等の一部改正に伴うよろずセミナー 2019 を開催して

標準化担当理事 愛知医科大学病院 佐野 俊一

令和元年5月26日(日) 13時30分から、愛臨技・新人サポート研修会の隣接会場にて、概ね200床以下の医療施設に従事する臨床検査技師及び医療関係者を対象に“第1回よろずセミナー、SOP・機器保守管理作業書 編”を開催しました。当日は5月にもかかわらず(名古屋市内で33.3度を記録)うだるような暑さの中、44施設47名と予想以上の参加がありました。

初めに、中根会長が自ら用意された「(仮想)愛臨技クリニック」で準備しているSOPと機器保守管理作業書を手に取りながら、必要書類の確認を行いました。そして、3月10日の相談会で頂戴した質問に丁寧に回答していただきました。次に、菊地精度管理事業部長から、具体的に何をすれば良いか ①情報収集 ②現状把握 ③行動 の必要性と、「あるもの・ないもの」、「改善すべきこと」について自施設に当てはめてシミュレーションすることの重要性をアドバイスしていただきました。その後、4つのグループに分かれ、事前に参加者に問いかけていた「検査項目の洗い出しの状況」や「精度管理責任者の有無」、「添付文書・取扱説明書のファイリング状況」などを確認しました。

今回、サポートスタッフとして、愛臨技学術部門員(生物化学、血液、微生物、遺伝子)や認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師の9名が対応しました。しかし、輸血や尿一般、病理細胞の検査に関する質問も出されたため、次回の課題とさせていただきます。

本セミナーは3回シリーズで行います。(第2回:測定・機器保守管理作業日誌と試薬管理台帳、第3回:統計学的精度管理台帳と外部精度管理台帳)クリニック、小規模施設の皆様、一緒に頑張りましょう!

問合せ先: aiccls.aamt@gmail.com





世界禁煙デーに参加して

中部大学 大学院 三田 康暁

「世界禁煙デー」啓発のために5月31日(金) 栄駅地下および交差点にて街頭キャンペーンが行われ、禁煙に関する呼びかけ・資料の配布を行いました。世界禁煙デーは世界保健機関（WHO）が制定した禁煙を推進するための記念日であり、街頭キャンペーンでは愛知県臨床検査技師会だけでなく医師会、看護協会、その他複数の団体と合同で啓発活動を行いました。愛臨技からは5名が参加し、活動を実施しました。

本イベントに参加して、たくさんの方に世界禁煙デーの活動を知っていただくことができました。若い方から年配の方まで資料を配布し、活動に興味を持っていただくことができました。資料を配布する中で「今日から禁煙を始めました」との声も頂き、より一層励みになりました。この活動がきっかけで少しでもたばこによる健康への害について考えて頂けたら嬉しく思います。

今後も同活動に参加し、禁煙の重要性を広めることができたらと思います。



小牧市民病院 生殖医療センター

小牧市民病院 臨床検査科 山口 桂子

小牧市民病院は、新元号の始まりとともに隣地に新たに開院します。

臨床検査科の取り組みとしては、検体部門における完全ワンフロー化による人員の効率化や遺伝子検査をはじめとする院内測定項目の充実化、生体部門ではプライバシーに配慮した完全個室化となっています。また、病理診断科においても手術室と直結し、術中迅速診断時の確実な検体の受け渡し動線を確保しています。

今回取り上げる不妊治療（人工授精や体外受精）の分野では、臨床検査科も携わっており、精液の検査や調整、顕微授精などの受精操作、受精卵等の凍結・融解・管理などを行っています。高度な技術が必要とする顕微授精の機器、受精卵をリアルタイムに観察できる培養器を導入し、先進的な生殖医療に取り組んでいます。

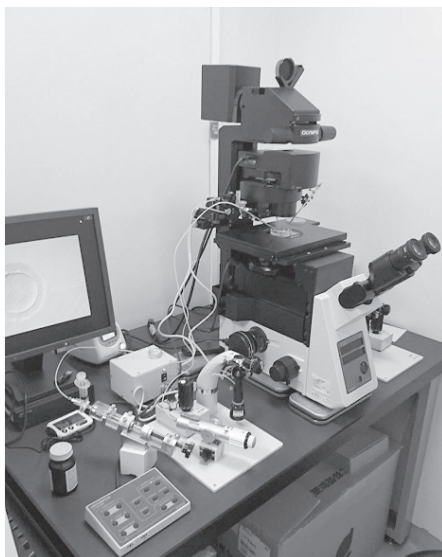
これまで、産婦人科に併設されていた不妊部門では、女性医師を中心とし、通常の診察時間よりも早い早朝外来も行ってきました。公立病院で、このよ

うな治療を行っている病院はまだまだ少なく、専任の胚培養士の採用を行っているのも、全国的に珍しいことです。

新病院では生殖医療センターとしてリニューアルし、総合病院という特徴を活かして、他科と連携し治療を行っていきます。例えば、若年性ガン症例を対象とした医学的適応での精子および未受精卵や受精卵の凍結、射出精液に精子が認められない重度の男性不妊症例を対象とした手術による精巣内精子の採取など、幅広く取り組んでいきます。

今後も地域の皆さまに密着した医療の提供に、また生殖医療センターとしては一人でも多くのご夫婦に妊娠して頂ける様、努めてまいります。

余談ですが、生殖医療センターの待合からは、日本で10番目に低い山（私調べ）・小牧山を眺めることができます。小牧山では、織田信長が築いた小牧山城などを紹介する小牧山史跡情報館「れきしるこまき」もオープンします。一度、遊びに来られてはいかがでしょうか？



顕微授精システム



生殖医療センターから望む小牧山城

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信 (第61回)

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発刊された刊行物、リーフレット「心電図検査」についてご紹介いたします。


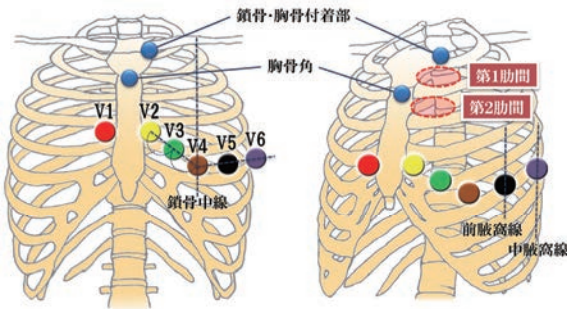
心電図検査を行う時や医療従事者などに説明する時、電極の位置やアーチファクトの種類と除去法について、心電図をきれいに記録するためのコツとともに、とても見やすくまとめられていますので、是非ご活用ください。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床衛生検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

V. 電極の位置

四肢誘導	胸部誘導
R : 右手 L : 左手 RF : 右足 LF : 左足	V1 : 第4肋間胸骨右縁 V2 : 第4肋間胸骨左縁 V3 : V2とV4の midpoint V4 : 第5肋間鎖骨中線上 V5 : 左前腋窩線上(V4と同じ高さ) V6 : 左中腋窩線上(V4と同じ高さ)

肋間確認の目安

- 第1肋間: 鎖骨と胸骨の付着部の下
- 第2肋間: 胸骨角 (胸骨柄下部の突起) の下
- 第4肋間: およそ乳頭の高さ (胸筋や乳房の厚みによるずれに注意)

四肢は手首から腕の付け根、足首から足の付け根の間であれば波形に影響はありません。
肋間の位置がずれると、記録される波形が異なってまいります。

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

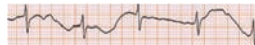
VI. アーチファクトの種類と除去

患者側要因	記録側要因
<ul style="list-style-type: none"> ● 発汗 ● 皮膚 (よごれ・乾燥) ● 呼吸 ● 緊張 ● ふるえ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電極の接地 (浮き・外れ) ● 電極の状態 (よごれ・乾燥) ● 電源・誘導コードの断線 ● 交流障害・静電気 ● 部屋の温度管理
コミュニケーション	機器や環境の整備

- 患者側が要因のアーチファクトは、声かけなどのコミュニケーションで解消できます。
- 記録側が要因のアーチファクトは、日常の機器や環境の整備で防ぐことができます。

アーチファクトの原因を特定し、的確に除去することが求められます。
電極の接地が弱い場合や体動がある場合は、シール電極が有効です。

基線動揺 (ドリフト)



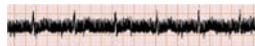
- 電極に衣服が触れないようにします。
- 静かに呼吸してもらいます。
- 汗をかいている場合は拭き取ります。

筋電図



- 患者の緊張をほぐすようにします。
- 衣服にゆとりを持たせます。
- 部屋の温度を調節します。

交流障害



- 誘導コードは束ねるようにします。
- アースの確認をします。
- 必要のない機器は電源コンセントから抜きます。

【発行者】 愛知県臨床検査標準化協議会 (AiCCLS) 生理検査部門
【問い合わせ先】 〒450-0002 名古屋市中村区名駅五丁目16番17号 花車ビル南館1階
公益社団法人 愛知県臨床検査技師会事務所内 愛知県臨床検査標準化協議会事務局
Tel 052-581-1013 Fax 052-586-5680 2016.6.Ver.1

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization